

〔伊呂波字類抄〕筋須人體筋骨也唐韻從竹肉刀也

〔下學集〕筋支上體筋

〔病名彙解〕青筋七世筋 アラスチノ發スル故ニ青筋ト云也、雲林龔氏ガ云、原氣逆シテ血行ラズ、惡血

ヲシテ上ツテ心ヲ攻シムル也、或ハ頭目昏眩心腹刺痛頭痛腦痛シ、口苦舌乾キ、面青唇黒ク、四肢

沈困シ、百節酸痛シ、増寒壯熱遍身麻痺手足厥冷シ、默々トシテ語ラズ、飲食ヲ思ハザルナリ、北人

多クコレヲ患フ、南人此アルトキハ沙證也、

〔塵塚物語〕五赤松律師兵書之事

一鼻のさきに羽たてに筋あるはいむ事也、青色なるは我を害せんとする人ありと云るべし、む

らさき色は毒をかはんとすると云るべし、○中

一目のうち堅ぎまに筋あるに吉凶あり、目がしらにあるはよろこびなり、目尻にある時は、三

日の中に大事にあふべきと知るべし、

〔陰徳太平記〕五十五上月城兵盜臺無鐵砲附寺木勝重弓精之事

今田モ入江モ尤也ト同ジナガラ、猶モ互ニ通身ノ筋ヲ張、方ヲ戮セテ引タリケルニ、九鼎ヲモ鵝

毛ノ如クニ扛ル許ノ大力ナレバ、○下

〔譚話浮世風呂〕男湯編下中六略 幡風廣右衛門ヤ夫幸ヤ勘左衛門などが敵は藍隈で云やした、幡

風は疳癩隈といつて、青筋をチリ〜と縮らかして入たものさ、大秀鶴もはじめのうちは、藍隈

で云たさうだが、○下

〔新撰字鏡〕肉各反入、隙也、子

〔倭名類聚抄〕三肌肉 膜 孫愔云、膜音與莫同、和名太奈之々、肉内薄皮也、

〔箋注倭名類聚抄〕二身體 按太奈之之、柵肉之義、○中廣韻膜肉膜與此不同、按說文膜肉間胘膜也、孫

膜